

障がいのある子どもたちの絵画コンクール
「第13回キラキラとアートコンクール 優秀賞作品展」開催
～札幌会場は12月12日（金）よりスタート～

三菱地所株式会社は、12月12日（金）から14日（日）にかけて、札幌市中央区の三菱地所グループの商業施設「マルヤマクラス」にて、「第13回キラキラとアートコンクール 優秀賞作品展」を開催します。

「キラキラとアートコンクール」（後援：文部科学省・全国特別支援学校長会）は、障がいのある子どもたちの可能性を応援したいとの思いから、国内初の障がい者アトライブラリー「アートビリティ」※を運営する社会福祉法人東京コロニーの協力を得て、2002年にスタート。「アートビリティ」の登録作家として現在14名が活躍するなど、子どもたちの才能を支援してまいりました。

※アートビリティ・・・1986年に社会福祉法人東京コロニーが設立した障がい者アトライブラリー。現在約200名の作家による約4,000点の作品がストックされ、印刷物等の媒体に貸し出されています。

本作品展は、13回目を迎える同コンクールの全応募作品1,835作品の中から、審査会（1次審査・三菱地所グループ社員審査・本審査）を経て選ばれた優秀賞50作品を全国6会場で展示するものです。

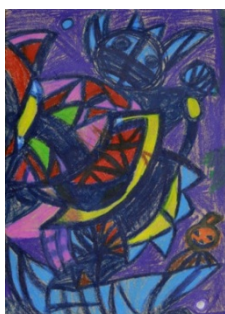
各会場では、思いのままに、自由に描いた個性豊かな子どもたちの作品に対し、来場者からメッセージを受け付け、今後の励みにつながるよう、表彰式で子どもたちにお渡しします。尚、メッセージを記入頂いた来場者には、本コンクール第12回優秀賞作品を使用して、社会福祉法人東京コロニー在宅就労グループ「es-team（エス・チーム）」がデザインした「オリジナル絆創膏」をプレゼントします。

また、本コンクールの応募作品はこれまで、様々な企業の冊子の表紙やカレンダーなどに使用されています。子どもたちの感性にあふれたのびやかな作品は、審査会、作品展、作品使用等を通じて、多くの方に感動を与えています。

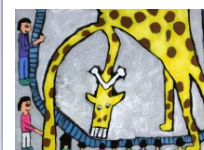
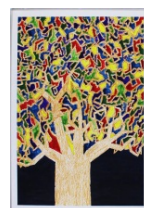
三菱地所では、本コンクールが障がいのある子どもたちの優れた才能を評価・発掘・展示する機会となり、芸術活動の裾野が広がることを願い、応援してまいります。

これまでの優秀賞・全応募作品を下記ホームページにて公開しています。

キラキラとアートコンクールホームページ <http://www.kira-art.jp>



北海道から1名が優秀賞を受賞しています。（左）
「HALLOWEEN NIGHT」わたなべ けいしろうさん



1. 開催概要（札幌会場）

- ①名 称：第13回キラキラとアートコンクール優秀賞作品展
- ②会 場：マルヤマクラス 2階イベントスペース（札幌市中央区南1条西27-1-1）
- ③日 程：2014年12月12日（金）～14日（日）10:00～20:00
- ④入 場 料：無料
- ⑤本コンクール概要：
 - ・応募資格：何らかの障がいのある応募年齢18歳までの幼児・児童・生徒
 - ・応募期間：2014年7月1日（火）～9月16日（火）
 - ・応募作品：課題は自由。水彩、油絵、版画、パステル、鉛筆、貼り絵、切り絵など平面表現のもの。
サイズは最大で60cm×50cm以内（最少はA4サイズ程度）
 - ・審 査：1次審査・三菱地所グループ社員審査・本審査を経て優秀賞50作品を決定
 - ・表彰式：2015年2月20日（金）東京・丸ビルホールで開催
審査員より賞状と優秀作品画集を贈呈

2. 審査員講評

■O JUN氏（画家・東京藝術大学教授）

全国から応募のあった多数の作品を審査してそのレベルの高さにあらためて驚いた。また惜しくも選外となった作品もそのレベルは決して低くはなく魅力的な作品が多数あった。私たちは絵を見てその色調や線の強弱によってつい、明るい印象や暗いイメージをもったりするが、実際に作者の思いや思考とは必ずしも重ならない。大切なことは1枚の絵が作者の「切実」に届いているかどうかだ。この判断は画家としての自分にも向けて問われるものなので審査をしながら私は大変興味深くも緊張したが今回、作品や制作動機あるいはタイトルのつけ方なども見て、皆自分の思いや感覚ときちんと向き合っている、自分の身体と逃げずに付き合っているなど強く感じた。このことは創作行為の基本であり、障がいの有無は関係ないとわたしは考えている。また作品は個人や学校単位で応募してきているが、学校によってはモチーフの選択や画材の指導が丁寧に行われているところがあるように見受けられた。それによって生徒が絵を描く上での技術的向上や知識などが増し達成感を得たり自覚的な制作を行えるようになるのはとても望ましい。だがそれが進むと絵具の塗りや筆触がどれも一樣にならされて画面の雰囲気似通ってくるという傾向もあって技術指導と個人性や資質の引き上げの兼ね合いがなかなか難しく一つの課題ではないかと感じた。

■青柳 路子氏（教育学研究者・東京藝術大学美術教育連携企画支援室主任コーディネーター）

今回、初めて審査に参加させていただきました。画面いっぱいに描かれた作品からは、子ども一人ひとりが夢中になって描いている様子が想像でき、私も絵を描くのが好きだった小さい頃の、あの世界観がよみがえってきて体が熱くなりました。

このコンクールの魅力の一つは、モチーフのある作品から抽象的な作品まで幅広い作品が出品されることです。それだけ、子どもがもっている世界は広く、また一人ひとり違っているということでもあります。出品された作品一点一点に、子どもたちのもつ豊かな世界が表れていました。私は今回、個性があって、一生懸命に描きつくった素敵な作品に出会えたことをとても嬉しく思いました。出品した子どもたち一人ひとりが、これからも描くこと、つくることを続けていってくれることを希望します。そして、いいなと思える作品ができれば、多くの人に見てもらえる機会をもってほしいと思います。

コンクール出品のきっかけをつくられた、特別支援学校の先生、絵画教室の先生、保護者の方々、子どもたちが大人になっても絵を描く喜びをずっと持ち続け、描き続けられるように、どうぞこれからも応援してください。私もその応援者のひとりとして、エールを送っていきたいと思います。

■西田 克也氏（西田克也デザインオフィス グラフィックデザイナー）

アートビリティの登録審査員の立場でずっと「キラキラっとアートコンクール」の審査に参加してきたわけだが、「キラキラっとアートコンクール」が質量ともに回を追うごとに充実していくのと呼応するように、作品と向き合う時のこちらの心構えというか、否、構えるのではなく心を開くこと（かな？）が、力むことなく自然にできるようになってきた気がする。心を開くことで、描く子どもたちの心に触れる。つまり、描く悦びに満ちた作品から、その悦びのお裾分けに与る。それも作品の数だけ！これが「キラキラっとアートコンクール」の審査員冥利というもの！！
そんな幸福な「キラキラっとアートコンクール」に、いつもいつも感謝で一杯です。
皆さんもどうか心を開いて・・・

■高橋 宏和氏（社会福祉法人東京コロニー アートビリティ代表）

全国から集ったエネルギー溢れる作品の数々、一つ一つの作品を通して応募者の皆様と対話するような気持ちで審査に参加させていただきました。
見る人の心を暖かくさせる作品、芸術性に優れた作品、根気良く丁寧に描かれた作品、全ての作品がとても個性的でした。作品に共通しているのは子供らしく描くことを楽しんでいる作品が多く、作品が完成した時の喜びや感動が審査する側にも伝わってくる審査会でした。
皆様には今後も楽しみながら絵を描き続けて欲しいと思います。
これからも素晴らしい作品を通して皆様に会えるのを楽しみにしております。

■杉山 博孝（三菱地所株式会社 取締役社長）

2013年11月、本コンクールはメセナアワード2013特別賞「文化庁長官賞」を受賞しました。これを機に本コンクールを文化庁が重視する「障がい者の芸術活動の裾野を広げ、優れた才能を評価・発掘・展示する機会の確保」の入口として改めて位置づけ、審査員を大変お世話になった高森、相馬両先生に替わって、障がい者芸術に造詣の深いO JUN、青柳両先生に新たにお問い合わせすることとしました。今回、その両先生と西田様、高橋様、高橋館長とともに、一枚一枚に込められた子どもたちの想いを共有しながら審査にあたりました。
結果として、子どもたちの感じたこと、想像したこと、好きなこと・ものがいきいきと表現されていることを大切にしながらも、大胆な発想、構図、色彩等、芸術性の高い作品が選ばれたように思います。
第13回を迎え「一回り」した本コンクールに1,835点もの応募をいただき、改めて心から御礼申し上げます。これからも子どもたちの可能性を応援し、芸術活動につながる入口として、本コンクールを皆様とともに育てていきたいと思っております。

■高橋 明也（三菱一号館美術館 館長）

線を引く、色を塗る、描くことは誰にでもできるプリミティブな行為なのに、そこにこれほど豊かな多様性が秘められていることに改めて気付かされました。日頃、職業として表現の現場に携わる眼にも、ここでみる作品は新鮮に映ります。
作品に込められた様々な思いは想像するしかないのですが、それでも数多く見応えのある作品を観ることができました。今後も描くことの切実さと喜びを味わうことのできるこの機会を共有してゆければと思います。

4. その他

①社会福祉法人東京コロニー 「アートビリティ」 <http://www.artbility.com/>

1986年4月に、社会福祉法人東京コロニーが設立した障がい者アートライブラリー。現在、約200名の作家による約4,000点の作品がストックされ、印刷物等の媒体に有料で貸出し、その使用料の60%が作家の方々に支払われる。

②在宅就業支援団体「es-team (エス・チーム)」 <http://www.es-team.net/>

障がいのある人たちの多様なワークスタイルを支援するため、社会福祉法人東京コロニー職能開発室が2000年4月にスタートさせた在宅就労(SOHO)グループ。東京コロニーが情報処理部門設立から20年間培ってきたIT技術と在宅就労に関するノウハウをいかし、働く障がい者のネットワークを結成して運営支援を行っている。

以上

《審査会の様子》

■1次審査(2014年10月3日)



■三菱地所グループ社員審査(2014年10月6日~9日/3会場)



■本審査(2014年10月10日/三菱地所本社にて)



《参考》

【所在地】札幌市中央区南一条西27丁目1-1
●地下鉄東西線「円山公園」駅6番出口直結
●「円山バスターミナル」下車徒歩1分(地下直結)
【駐車場】190台
【店舗】81店舗/地下1階、地上5階
【運営】三菱地所リテールマネジメント株式会社
(Mitsubishi Jisho Retail Property Management Co.Ltd.)

